



65th IFALPA Annual Conference, Marrakech, Morocco

全体報告

3月19日～3月23日モロッコのマラケッシュに於いて、IFALPA 加盟61協会530名が出席し、第65回IFALPA 総会が開催されました。日本から、IFALPA RVP NOPである石山勉機長初め、日乗連4名が日本の乗員を代表し参加しました。この全体報告に続き、今年のIFALPA 総会で議論され、決定された各委員会のPolicy などをお伝えしていきます。

開会の冒頭にIFALPA会長Carlos Limon機長は、「我々はどの地域においても、人員、コスト削減により労働条件が切り下げられている。それにも拘らずパイロットの高いステータスを維持するためには、パイロットは各航空の専門分野においてより良い訓練と教育を受け、その能力を向上させていかなければならない。各加盟協会は、それぞれ所属する航空会社は別であり、互いに競争関係にはあるが、パイロットの社会は情報を共有し協調して航空の安全に貢献してゆく活動をしなければならない」と述べました。

また、モロッコALPA会長は、「航空先進国ヨーロッパと発展途上国アフリカの間の橋渡しの位置にあるモロッコの地理的特性から、アフリカ全体への航空安全への貢献をIFALPAの活動を通して行うことがアフリカの将来にとって最も重要である。」と強調しました。さらに、モロッコ航空CEOおよび航空局長は、「オープンスカイによりモロッコの航空輸送は経済後退の中でも増大し、それに伴ったインフラ整備を積極的に行っている。それを確実に推し進めるには航空安全維持が最重要であるという観点からIFALPAの活動は大いに意義がある。」と称賛しました。

FedEx 80 Accident対応へのALPA Japanへの正式な謝辞

昨年のニュージーランド総会開催中、FedEx 80のNRT 34L着陸時に事故が起こり、不幸なことに2名の乗員が亡くなりました。当時の日乗連のタイムリーな対応、報告が大きく評価されました。それ以来US ALPAから昨年開かれた各IFALPA Committeeでも出席者が謝辞を受けていました。今回、全体総会の中で、US ALPAは正式にALPA Japanに謝意を表明し、記念の盾を館野AAP委員長が受け取りました。館野委員長は、今後も事故調査、報告および乗員支援を積極的に行っていくことを表明しました。

Japan ALPA Scholarship FundによるALPA Japanの貢献に対し正式な謝辞

この基金は、1998年に全ての日本の乗員が結集してIFALPAに加盟した際、当時の日乗連が積み立てていたIFALPA年会費を手続き上、Japan ALPA Scholarship Fundとして寄付したもので、以来総会中のガラディナーでLotto（くじ引き）を開催し、その売り上げを基金に追加してきました。今年は4700\$が追加されました。その目的の一つは資金的に苦しい協会のパイロットにも事故調査官養成コースへの参加等を支援することです。

今年2月、この基金を使い25名という多数の事故調査官養成コースへの参加が実現したことを受けて、全体総会の場で正式に称賛され、記念の額を受け取りました。

今後も発展途上にある協会および地域の、技術力向上に貢献する事が期待できます。

(次頁に続く)



新しく加盟した協会

今回のIFALPA総会で、ペルーのIFALPA加盟が新たに承認されました。これでIFALPAの加盟協会総数は2010年3月23日現在で100協会（約10万人）になりました。また、インドとブラジルの協会がその内部で他のパイロットグループを迎え入れ、組織が拡大しました。一方、ボリビア、カザフスタン、ナイジェリア、スーダン、スワジランドの各協会は、2002年以来連絡が途絶え非加盟とされました。

IFALPA会長代行選挙

新しくUS ALPAのDon Wykoff機長が選挙の結果、会長代行に選出されました。Don Wykoff機長はUS ALPAおよびFAAのなかでFlight Time Duty Timeの基準作りに長く携わってきた専門家です。ALPA Japanは、JALの状況等を考えると最適な人物であるという判断でDon Wykoff機長に投票しました。

ボーイング・エアバスのプレゼンテーション

まず、ボーイングからB787-8とLong Range長胴型のB787-9の飛行試験の状況が紹介されました。操縦室内にCBは一切ありません。B777からの移行は5日間で可能です。次にB747-8の初飛行の様子が紹介されました。最大離陸重量975T lbs（最大着陸重量682Tlbs -8, 759Tlbs -8F）で燃料消費はB747-400から16%向上しています。B747-400と同型式限定です。さらに、エアバスからA350のAdvanced Cockpitが紹介されました。2012年に初飛行の予定です。

Safety Seminar

将来の大型無人航空機や一人乗り航空運送用航空機の開発、導入に伴うパイロットの取り組みが議論されました。これらの将来の技術革新が現実のものとなると認識し、パイロットとして運航環境整備や新技術についてどうかかわるかの枠組み造りを技術革新に先行して行くことが確認されました。

Industrial Seminar

世界の航空需要は好転し、2010年度には赤字幅は殆どゼロに近く縮小すると予想されています。その中で国の枠組みを超えたLow Cost Airlineが発展する一方、親会社に対抗する代表組合が存在しないことが、世界的な雇用契約時の最低賃金設定の障害になっていることが報告されています。

Critically Deficiency Airport or FIR

アジア地域では、運航には重大な障害があるとIFALPAが認定する地域空港が2か所あるが、来年は向上が予想され1か所に縮小される見通しです。

地元モロッコの支援

太陽と歓待の国モロッコ、空港を降り立ちタラップを降りるとIFALPA Conferenceの大きな横断幕が掲げられており、大通りに面した宿泊ホテルに隣接する会議場の建物全体にもいくつものIFALPAの大きなロゴが掲げられていました。総会中の日曜の休養日には、モロッコ空軍の特別エアショーを楽しみました。モロッコ航空の航空券割引やエクセスチャージの免除などを受け、モロッコ航空およびモロッコ政府の全面支援を受けました。

67th IFALPA Conference in Paris in 2012

総会での承認の結果、2012年総会はParisで開催することに決定しました。新たに2013年にはアルゼンチン、2014年にはパナマが総会誘致を表明しました。来年2011年の66th IFALPA総会は、タイのチェンマイで4月8日から12日の間、行われます。

